



平成 29 年 5 月 10 日(水)定例会講演要旨

移動するアイヌ地名

アイヌ語地名研究会事務局長

手稲郷土史研究会会員 渡辺 隆氏

つぎの三つの蝦夷乱でアイヌ民族が敗北したため、アイヌに不利な場所請負制度がすすみ、アイヌコタン強制移住への道につながっていきます。

① 1456 年、コシャマインの決起

これを契機に和人は蝦夷地を植民地として開拓する立場を得ることとなり、アイヌは自分で稼いだ漁獲物を和人と対等な立場で交易することができなくなります。

② 1669 年、シャクシャイン抗争

アイヌに不利な物々交換の取引（商場から請負場所制へ）になります。アイヌコタンは川上から川下への移動を余儀なくされ、漁業労働力として使役されることになります。アイヌ民族はますます不満を募らせます。

③ 1789 年、国後・目梨の乱

蝦夷地に場所請負制度が行われてから 1 世紀経過の頃、松前藩は全ての場所の商人に場所交易権、後には漁場経営権を移譲します。商人から運上金を徴収し藩の重要な収入としました。

幕府は 1799 年から 1821 年まで、東蝦夷を箱館奉行が直接立ち会う直轄地とします。1807 年に北方防備の必要から東北の諸藩に国後島・択捉島を含む蝦夷地の警備を命じています。

幕府は、1821 年に蝦夷地直轄をやめますが、34 年後の安政 2 年（1855）に、今度は蝦夷地全域を再び幕府直轄とします。この年、「日露和親条約締結」が結ばれ、択捉島まで日本領に、南樺太は日本とロシアの雑居地となりました。それで樺太アイヌと北千島アイヌの強制移住があって、悲惨な生活に追い込まれ多数の犠牲者を出しています。

アイヌコタン強制移住の例

①～⑥は 1700～1800 年代に移住したものです

- ①寿都 朱太川下流に住んでいたアイヌを岩崎（現・寿都町六条町）に移住させた。
- ②小樽 旧ヲタルナイ川にあった運上屋が今の小樽市入船町へ移された。
- ③元静内の川口にあった会所を静内に移す。
- ④元浦川の川口にあった会所を今の浦河に移す。
- ⑤元沢木川の川口にあった番屋を今の沢木に移す。
- ⑥藻麓川の川口にあった元紋別を今の紋別に移す。
- ⑦樺太アイヌ（108 戸、841 人）を、北海道の対雁（江別太）に強制移住（明治 8 年）
- ⑧北千島アイヌの 97 人を、色丹島に強制移住（明治 17 年）
- ⑨元神部村（現・新冠町字東川）のアイヌ（4 戸、17 人）を別の河畔に強制移住（明治 18）
- ⑩釧路市街地のアイヌ（27 戸）をセツリ川上流（現・鶴居村）へ強制移住（明治 18）
- ⑪山網走のアイヌ（27 戸、95 人）を美幌村アシリベツクシに強制移住（明治 22～23）
- ⑫旭川村のアイヌ（3 集団、36 戸）を旭川市近文に強制移住（明治 27）
- ⑬姉去（現・新冠町大富）のアイヌを上ヌキベツ（現・平取町）へ強制移住（大正 5）



自然現象によるコタンの移動の例

⑭虻田（有珠山 1882 年噴火）

⑮真勲別（石狩川河口の流れが変化）また、コタンは移動しませんが、地名が変わった例、

⑯元室蘭、本輪西。

アイヌ地名が化けた例

⑰アポイ岳もあります。

手稲おもしろ散歩

手稲コミュニティセンター

手稲の歴史・お宝発見

手稲郷土史研究会

会長 茂内 義雄氏

みなさん、こんにちは！ 第1回「手稲おもしろ散歩」にこの様に多くの方々がお集まりいただき、大変うれしく思います。

今日は、手稲郷土史研究会の学習の中で 10 項目を選んでみました。この手稲コミュニティセンター講座「おもしろ散歩」を通して「語りべ」のつもりで紹介します。



今まで、手稲歴史ガイドマップや歴史年表とは一味違う角度から、この後、私案のつもりで提案させて頂き、さらに検討を加えていくつもりです。

「手稲は山あり、川あり、海が近い所です」と、独特の語りで「お宝探し」を当時の新聞や写真を紹介しながら約 60 名の聴衆（満席）に語りかけました。（文責：佐々木）

H29 年 5 月 24 日

曙健幸クラブ講演から

鉄北地区の発展よもやま話

手稲郷土史研究会

会員 佐藤 至氏

国鉄 AP・ほまれ団地・札幌運転所(手稲車両基地)時代

私は昔 S L や D C の乗務員で、札幌運転所に勤務した後 E C や L 特急などに乗務していました。当時の国鉄 AP 団地と鉄北小学校は隣同士で、国鉄 AP から 148 名も通学していました。鉄北小学校開校日と札幌運転所開所日は同じで、昭和 40 年 9 月 1 日が誕生日です。

前田ほまれ町内会に移住後は 7 年間会長を務めた後、「軽川桜づつみ」が完成するまでの 10 年間、事務局長として道や市への陳情に走りまわり、平成 4 年完成後引退しました。

手稲駅北口周辺の急激な変化

私の自宅は、手稲駅北口の真北にあり、旧竹内牧場跡を造成した「ほまれ団地」です。

国鉄手稲駅との間に牧場の名残りとして事務所があり、「かまぼこ型」の長大牧草倉庫 2 本、サイロ 2 本、駅まで 2 列のポプラ並木、赤レンガの 2 階建て倉庫、三楽オーシャン工場と長い煙突、広い草原や林、そして遠くまで汽笛がながれる、のどかで自然豊かな環境でした。

ある日突然、サイロと長大倉庫 1 本が解体され北口通が造られ、古い建物が消え、西友店、拓銀、区役所、郵便局、商店街、溪仁会病院が建ち激変した情景を語り伝える熱弁にみなさん聴き入っていました。（文責：濱埜）

次回定例会の予定
「北方四島ビザなし
渡航事業に参加して」
村元健治・一ノ宮博昭会員
7 月 12 日(水) 6 時 15 分
区民センター会議室